

みずほCustomer Desk Report 2020/01/30号(As of 2020/01/29)

市場営業部 為替営業第二チーム

【昨日の市況概要】

	USD/JPY	EUR/USD	EUR/JPY	公示仲値	109.11
				GBP/USD	AUD/USD
TKY 9:00AM	109.14	1.1023	120.28	1.3024	0.6764
SYD-NY High	109.27	1.1028	120.44	1.3028	0.6777
SYD-NY Low	108.98	1.0992	119.90	1.2990	0.6736
NY 5:00 PM	109.01	1.1011	120.01	1.3016	0.6752
NY DOW	28,734.45	11.60	日本2年債	-0.130	0.00bp
NASDAQ	9,275.16	5.48	日本10年債	-0.040	0.00bp
S&P	3,273.40	▲ 2.84	米国2年債	1.4118	▲ 5.57bp
日経平均	23,379.40	163.69	米国5年債	1.4034	▲ 7.98bp
TOPIX	1,699.95	7.67	米国10年債	1.5797	▲ 8.09bp
シカゴ日経先物	23,250.00	▲ 110.00	独10年債	-0.3795	0.05bp
ロンドンFT	7,483.57	2.88	英10年債	0.5150	▲ 3.50bp
DAX	13,345.00	21.31	豪10年債	1.0235	7.65bp
ハンセン指数	27,160.63	▲ 789.01	USDJPY 1M Vol	5.03	▲ 0.20%
上海総合	-	-	USDJPY 3M Vol	5.21	▲ 0.14%
NY金	1,570.40	0.60	USDJPY 6M Vol	5.52	▲ 0.07%
WTI	53.33	▲ 0.15	USDJPY 1M 25RR	-1.20	Yen Call Over
CRB指数	172.95	▲ 0.84	EURJPY 3M Vol	5.84	▲ 0.08%
ドルインデックス	98.04	0.02	EURJPY 6M Vol	6.04	▲ 0.06%

【昨日の指標等】

Date	Time	Event	結果	予想
1月30日	00:00	米 中古住宅販売仮契約(前月比)	12月 -4.9%	0.5%
	04:00	米 FOMC政策金利	29-Jan 1.5%-1.75%	1.5%-1.75%
	04:30	米パウエルFRB議長 講演	「金融政策は適切」「コロナへの警戒感」	

【本日の予定】

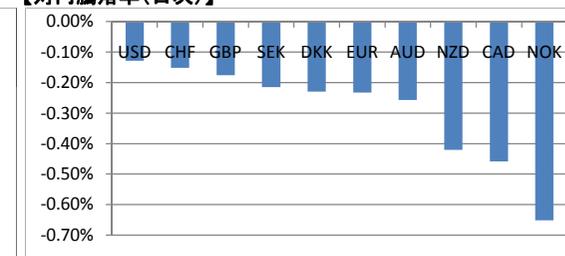
Date	Time	Event	予想	前回
1月30日	21:30	英 カーニー-BOE総裁 講演	-	-
	22:30	米 個人消費	4Q A 2.0%	3.2%
	22:30	米 新規失業保険申請件数	25-Jan 215k	211k
1月31日	03:00	欧 バイトマン・ドイツ中銀総裁 講演	-	-

東京	東京時間のドル円は109.14レベルでオープン。日経平均株価が堅調に推移したことによりドル円は一時109.23まで上昇した。しかし上値を伸ばす展開とはならず、買い一服後は上昇幅を縮小させ、結局109.12レベルで海外に渡った。
ロンドン	ロンドン市場のドル円は、109.12レベルでオープン。新規材料が無いなか、方向感なく狭いレンジで推移。オープンと同レベルの109.12レベルでNYに渡った。ポンドドルは、1.3024レベルでオープン。明日に英中銀の金融政策決定発表を控えて、動意に乏しい展開となった。1.3008レベルでNYへ渡った。
ニューヨーク	ドル円は109.12レベルでNYオープン。朝方は、ダウ先物が上昇する動きに円売りが優勢となり、109.18まで戻すものの、やや米金利が低下したことや、米中古住宅販売仮契約が予想を大きく下回ったことから108.98まで下押しする。その後は世界保健機関が明日緊急会合を召集することを発表するが、ドル円の反応は限定的となり、ロンドンフィックスに掛けてドル買いが強まり、109.19まで戻す。その後は午後のFOMC結果発表を控え狭いレンジでの推移が続いた。FOMCでは、一部で期待された超過準備への付利(OER)が5bp引き上げられ、1.60%になり、ドル円は海外市場で付けた高値と同レベルの109.27まで戻すが、戻り売りに反落。パウエル議長の記者会見では、特段サプライズな発言はなかったものの、昨年10月から開始され今年第2四半期あたりまで継続することになっているT-Billの購入について、QEではないかとの質問に対し、最終的には購入ペースはスローダウンさせるとの発言はあったものの、レボオペが延長されたことからT-Billの購入もいずれ延長されるとの見方が強まったことなどから、米金利が低下する動きに109.00まで下落し、109.01レベルでクロスした。一方、月末絡みのドル買いの思惑に上値の重いユーロドルは1.0998レベルでNYオープン。海外市場の流れを引き継ぎ1.0992まで下落するが、その後はFOMC結果を控え、狭いレンジでの推移が続く。午後は、パウエル議長の発言を受けドル売りが優勢となったことから1.1021まで戻し、1.1011レベルでクロスした。

【ドル円相場】



【対円騰落率(日次)】



【マーケット・インプレッション】 ダウンサイドリスクはあるものの、結局はレンジ内か

月初、ドル円は108円台後半で始まり、米イラン間の地政学リスクの高まりから107円台まで下落するも、15日には米中の部分合意調印によって約8ヶ月ぶりに110円台を回復。グローバルに堅調な株式市場に支えられ、ドル円も確りとした推移が期待された矢先、21日にコロナウィルスの感染拡大懸念が台頭したことにより、リスクオフの流れとなり、109円付近まで押し戻された。2020年に入り、市場のトピックスが次々と変化し、慌しい1ヶ月だったという印象だが、ドル円は結局のところ昨年9月頃頃から形成されている107円～110円のレンジ内での推移となっており、今年度中に当該レンジのブレイクの可能性は低いと考えている。

目下、市場の注目を集めるコロナウィルスについては、市場のリスク回避的な動きは一旦、一服している。しかし、日々、アップデートされていく感染状況では、感染者数が2003年に流行したSARSを上回り、本邦含め中国国外での感染例も続々と報告されている。また、中国国内では大手小売店の休業や工場の操業停止など、事態は深刻化しているように見える。斯かる状況下、本日、WHOが緊急会合を開催する予定である(結果は日本時間31日の早朝3時半頃に公表予定)。本会合で一旦は見送った緊急事態宣言が選択されれば、短期的にはパニック的な売りが入り、ドル円も下落する展開が想定される。しかし、すでに各国政府が防止策に動き出していることや、実態経済に及ぼす影響を見極めるには2月、3月以降に発表される経済指標などを検証する必要がある。現段階から過度に売り込むこともリスクであろう。ドル円については、今後、ダウンサイドリスクが爆るものの、米の主要企業の良好な決算内容などのサポート材料が観測されていることを鑑みると、仮に下落しても下値の目処は107円付近と考えている。(逸見)

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償のみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

担当: 逸見・小野崎 TEL:03-3242-7070 FAX:03-3211-5825 LDN 00531-444-179 NY 00531-113-682

■今週のドル/円 見直し

田中	竹内	筒井	加藤	関	光石	山岸	田坂	尾身	上野
ブル	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル	ベア	ブル
岡本	小野崎	玉井	原田	大庭	高村	松本	逸見	大谷	谷舗
ブル	ブル	ベア	ベア	ブル	ブル	ベア	ブル	ブル	ブル
							ブル	ベア	
							13	7	